

# 第1回エコミュージアム研修会

日時／平成16年3月29日

場所／湯田町役場3階会議室（現・西和賀町役場）

## 演題：「自然と人々の暮らしの原理」 講師：関山房兵

日本の国で nature に自然の訳語を当てはめたのは、明治以降で、もともと人間主体と対立する客観的な自然概念は無かった。自然（おのずからしかり）と読み取れるように、われわれ日本人にとっての自然観とは、人間の手に負えない万象の世界を意識していたのではないか。人間も自然生態系のエコシステムの一員であり、地域社会の発展、循環型社会の形成、地域資源の持続的利用や開発を考えるときには、いつもエコシステムの原理に立ち返るべきであろう。



最近、人間を含む生態系の安定に貢献する要因は、生物の多様性（いろいろな種類がいること）であることがわかってきた。役に立たないものや外見が悪いもの、目に見えないものなど、存在意義をもう一度問いただして見る必要がある。

かつて西欧では未知・未開の土地にたどり着いた人々は、まず博物館を建てたという。博物館活動によって得られた地理情報や資源資料をもとにその土地の生活計画（ランドデザイン）を描いて、そこから住み着いたという。エコミュージアムの原初的形態は、そこから始まるのではないか。



講演する関山先生

### ◆講師プロフィール 関山 房兵◆

#### 1. 略歴

昭和17年 岩手県盛岡市生まれ  
昭和40年 岩手大学農学部総合農学科卒業  
同 年から岩手県農地林務部技師(1年)  
岩手県立高等学校教諭(25年)  
岩手県立博物館学芸員(10年)  
平成12年 環境省入省(保護増殖専門官)  
平成15年 定年退官  
平成15年 猛禽類生態研究所 所長

#### 2. 所属学会・団体など

日本鳥学会、日本野生生物保護学会、日本イヌワシ研究会(社)東北地域環境計画研究会